

ERCCEM【シャフトシール】の点検と交換

運転時の点検	
1 運転の前に	<ul style="list-style-type: none"> ● シャフトシールから水漏れ等異常がないことを十分点検確認して下さい。 ● エンジン運転前にベローズホース内の「エア抜き」作業を必ず行って下さい。カーボンリング部を手でプロペラ側に押し少量の海水の吹き出させます。 ● 陸置き艇はこれを下架毎に行って下さい。 ● 試運転時は運転中も水漏れの点検確認をして下さい。
2 保守・点検	※ ベローズホース、およびカーボンリングとステンレスリングの接触面は特に重要です。乗艇毎に点検して下さい。細かいキズやクラック等少しでも異常を発見したら速やかに交換して下さい。
3 交換の時期	※ シャフトシールは使用時間2000時間または5年以内に必ず交換して下さい。交換は本取付け方法を十分理解し正確に行って下さい。
4 寒冷地での使用	※ シャフトシール内の海水が凍ると使用できません。寒冷地での使用には特に注意して下さい。
5 破損時の応急処置	※ 使用中、ベローズホースまたはカーボンリングの接触面にキズができ水漏れを発見したら、すぐにエンジンを停止し、シャフトシールに布切れまたはビニールシート等をしっかり巻き付けて応急処置をし、速やかに帰港、上架修理を行って下さい。
取付け方法	
(※ シャフトシールはニュージャパンヨット製ヨットのための専用交換パーツです。)	
※ シャフトシールは高速艇(パワーボート等)には使用出来ません。高速時シャフトシール本体の海水冷却が出来なくなります。	
1 梱包内容の確認	ホースクランプ4個、ベローズホース(カーボンリング付)1本、ステンレスリング1個、六角レンチ1本
2 取付けの前に	<p>a エンジンとシャフトの芯合せの後、カップリングからシャフトを外し、シャフトシールの「ステンレスリング」取付け部分を点検して下さい。キズや摩耗があった場合シャフトを新品に交換して下さい。</p> <p>b シャフト面に問題なければ、「ステンレスリング」取付け部分(オリング接触面)を400番以上の細かい耐水ペーパーで入念に磨いて下さい。</p>
3 取付け	<p>a 取付ける時、シャフトとオリングの潤滑を良くするためにシャフトにマシンオイルを塗り、次の順に各部品をシャフトに通して下さい。</p> <p>b 「ホースクランプ2個」、次にカーボンリングが組み込まれた「ベローズホース」、そして最後に「ステンレスリング」を通します。</p> <p>c プロペラシャフトをエンジン本体に取付け、ホースクランプ2個でベローズホースをスタンチューブに固定します。</p> <p>d ステンレスリングの取付けは、シャフトに対し正しく直角に、取付け位置はベローズホースがフリーの状態から4~6mmプロペラ側に圧縮した位置でステンレスリングのセットスクリーで固定します。 セットスクリーには必ずロックタイト(ネジロック)を使用し強くロックして下さい。ロックタイトを使用しないとセットスクリーがゆるみ水漏れの原因になります。</p>
重要	<ul style="list-style-type: none"> ※ ステンレスリングとカーボンリングの接触面が正しく接触していることを確認して下さい。 ※ ベローズホース、カーボンリング、ステンレスリングの取扱いはプライヤー等の工具の使用は避け、必ず手で持って行って下さい。 ※ カーボンリング、ステンレスリングの接触面、またベローズホースにキズを付けないよう十分注意して下さい。